

つながり合い 学び合う 修立っ子の育成
～どの子ども「わかる・できる・身につく」授業づくり～

□平成29年9月1日（金） 於：鳥取市立修立小学校

□アドバイザー 教育実践研究家 菊池 省三 先生

1 菊池先生による示範授業

「主体的・対話的で深い学び」をめざし、子どもたちが成長する授業づくり

- ①ほめること認めることで、価値ある言葉を子どもたちの中に浸透させていく。
- ②対話を重視した授業で、子ども同士をつなげていく。
- ③自分らしい考えを大事にする。

(1) 示範授業 1年2組「ひらがなであそぼう～ともだちといっしょにひらがなをまなぼう～」

○主な展開

- ①好きなひらがなをノートに書き、全体で共有。（画数で色分け）
- ②「○まった」 ○に当てはまるひらがなをノートに書き、班で見合う。
- ③チョークリレーで黒板に書いていく。
- ④「○○まった」に当てはまるひらがなをノートに書き、班で見合う。
- ⑤チョークリレー

- ・黒板の左端に、「やる気のしせい」「スピード」「音を消す」などの態度目標を示し、子どもたちをほめることで規範を示されていた。
- ・子どもたちのほんの少しの変化ややる気のある態度、自分らしさを出した意見を見逃さず、教師がすかさずほめる、みんなで拍手するなどして価値づけることで、子どもたちの学ぼうという意欲が伸びていく。
- ・ペアやグループでの対話を重視。スピード感あふれる授業。
- ・教師の意図から外れる答えを書く子の意見を「レベルが上がった」と取り上げ、次の課題へとつなげていく。
- ・支援を要する子への対応、トラブルが起きた時の対応・・・場の雰囲気壊さない対応

(2) 示範授業 4年1組「1本のチューリップ」

○主な展開

- ①「1本のチューリップ」の話を聞く。
- ②花子さんがしたことは、○か×か考える。
- ③自分の考えをノートに書く。その理由も書く。
- ④○と×のそれぞれの意見を交流する。
- ⑤隣同士のペアの対話、グループでの対話、自由に席を立てて○の人と×の人との対話。
- ⑥花子さんはどうすればよかったか考え、意見を交流する。

- ・子どもたちの主体的な活動や対話を重視した授業であった。子どもたちを信じ、自由に教室を歩きながら友だち同士と意見を交流することで、途中から自分の意見が変わったり友だちの意見に賛同したりと対話をしながら学びを深めていった。
- ・ペアで対話をするとき、「一人をつくらない」という態度目標を黒板に示し、友だちのところに自分から行き進んでペアで対話しようとしている子をほめ、認めることで、学級の中にその言葉を浸透させていった。
- ・人の意見と「同じです。」で終わるのではなく、自分の言葉で意見が言えた子をほめ、「自分らしさを出し合う」ことを大切にした授業であった。
- ・「読む力」「予想する力」を大事にし、相手の気持ちの先を読んだり、こうじゃないかと自分で予想して考えたりすることの大切さ、必要性を感じることができた。

(3) 示範授業 6年「友達」

○主な展開

- ①詩「友達」の前半を読む。
- ②前半部分「困った時、助けてくれたり 自分のことのように心配して 相談にのってくれる そんな友人がほしい」の意味について考える。
- ③後半部分「馬鹿野郎 友達がほしかったら 困った時、助けてやり 相談にのり 心配してやることだ」について考える。
- ④隣のペアで考えを交流する。
- ⑤「そして、相手に こと これが友達を作る秘訣だ」 に入る言葉を考える。
- ⑥ノートに自分の考えを書く。意見を交流する。
- ⑦授業の感想を書く。

- ・「迫力」「勢い」「スピード」「自分から動く」「一人をつくらない」などの態度目標を黒板に示しながら、子どもたちに学習規律や価値ある言葉を入れていく。「～しなさい。」や「～してはいけません。」ではなく、短い言葉で目標となる言葉を示すことで子どもたちは自然と身についていく。
- ・「自分らしさ」を出して自分の言葉で考えを言えた子を拍手でほめ、一人一人が自分らしさを発揮して授業の中に参加していくことの大切さを示していく。
- ・友だちの発表に対して「リアクション」することで、学級のみんながその子を認め、学級が一体になる雰囲気を作ることができる。
- ・口角を上げ笑顔で話す、笑顔で相手に答えることで、子ども同士のつながりがより一層強まる。
- ・授業の振り返りをし、今日の学習での自分の気づきを大事にする。

2 菊池先生による講義

- ・黒板の5分の1に「きりかえスピード」「音を消す」「自分から動く」「自分らしさ」などの態度目標を示すことで、学習規律を入れていく。
- ・非言語の部分、たとえば「前かがみで身を乗り出して話し合っている。」「笑顔で友だちの話を聞こうとしている。」「笑顔で話ができる。」「友だちの発言に対してリアクションができる。」「ペアやグループになるとき一人の子をつくらない。」「自分らしい言葉で考えを言う。」などの視点で子どもたちのよさを見出し価値づけていくことが大切である。
- ・スピーチなどの表現をしたがらない子どもたちは、過去にそういう場で「失敗体験」がある場合が多い。前回よりよくなったことを見つけほめることにより自信をもたせる。
- ・「一人が美しい」という価値語が生まれた背景・・・学級の全員が体験した事実に基づく価値ある言葉は子どもたちにとって心に響き、残っていく。価値語を植林することで学級の空気が変わってくる。
- ・様々な活動をする場合、それを何のためにやるのか、それをやることによる目的や価値を説明し分かったうえで行う。そして、必ず活動のふり返りを行うことが大切である。ふり返りを行うことで活動の質を高めていくことができる。
- ・「ほめ言葉のシャワー」に取り組むとき、帰りの会になるまでに朝から今日の「主人公」を学級のみんなに意識づけ、教師がさまざまなしかけをしていくことも必要である。質問タイムや、ほめ言葉のシャワーの日めくりカレンダーづくり、ほめ言葉の中に「固有名詞」「数字」「会話文」などが入っているか、「世界で自分だけが見つけたその人のよさやがんばり」を、事実をよく見て伝えているかなどを意識させていく。子どもたちの気持ちを高めていくことで質も教室の空気も変わってくる。
- ・主体的・対話的で深い学びのある授業をめざし、低学年では子ども同士、教師と子どもの会話のキャッチボールの楽しさを味わわせる。中学年、高学年では「しゃべる。質問する。説明する。」ということを大事にしディベートなどの体験をしていくことが必要。
- ・子どもたちの成長の小さなことでも取り上げ、みんなで拍手をし、価値づけるような教師をめざしていく。

3 今後活かしたいこと

- ・子どもの心の中に、授業でめざすものを価値あるものとして位置づけていくことを実践していきたい。
- ・「一人をつくらない」「一人が美しい」「一人も見捨てない」というような視点が重要であることを学んだ。教師がこのようなほめる視点を多くもっていることが実践につながるのだと感じた。
- ・子どもの小さな行動を見逃さず、価値づけをし、全体の場に共有し、よりよい方向に子どもたちを成長させていきたい。
- ・まず、教師の子どもたちへの想い、熱意を大切にしていきたい。
- ・めざす子どもの姿を明確にしておき、的確にほめて育てたい。
- ・「主体的・対話的で深い学び」にしていくためにも、教師が授業の中で子ども同士をつなぎ、言葉やコミュニケーションを大事にしながら子どもたちの成長を促していきたい。そのためにも、全校体制で取り組んでいきたい。